ファーム伊達家からのおたより

ようこそ畑へ

２００９年８月３１日(月)、９月３日(木)VOL.１１

先週、一部の方にはトマトをお届けしました。今週は、皆さんに１個ずつですが、お届けできそうです。ただ、少し皮が割れているものもありますので、すぐに食べてください。

お届けするのは固定種の「世界一」という品種で、まだ公務員として働いていた2002年から毎年種採りを繰り返してきました。1981年に、有名な「桃太郎」という交配種（F1）が登場するまでは固定種のトマトが多く作られていて、「世界一」は有力な品種の一つだったそうです。

これまで伊達家の畑ではなかなかうまく育てることができませんでした。実の全体が赤くなる前に割れてしまったり、お尻の部分が腐ってしまったりという失敗を繰り返してきました。植える場所を変えたり、水やりの量を変えたり、いろいろと工夫してきましたが、なかなかうまくいきません。今年も露地に植えたものはひどい状況になってしまったのですが、ハウスの中に植えたものは、これまでになくよい生育で実もきれいで「今年は行けるかな」と思いつつ、全体が赤くなるのを待っていたのですが、全体が赤くなる前に実にひび割れが発生してきました。「うーん、今年もだめか・・・。」とちょっと悲観的になっていました。

先日、インターネットでトマトについていろいろと調べてみました。すると、今まで知らなかったことが少しわかってきました。前述の交配種「桃太郎」が登場するまで作られていた固定種は皮が柔らかく、赤くなるまで待って収穫すると輸送中に皮が傷ついたりすることが多く、大量生産、大量消費の流通システムの中ではロスが発生するため、まだ皮が硬く青いうちに収穫し、赤くなるのを待って販売することが一般的に行われていたそうで、そのため味（特に甘み）があまりよくないという問題があったそうです。その問題を

解決するため、赤くなってから収穫しても皮が硬くて傷つきにくくて甘い品種として開発されたのが「桃太郎」なのだそうです。

そこで少し考えました。この「世界一」トマトは、そもそも実の全体が赤くなるまで樹につけておくと割れやすいもので、割れる前に収穫したほうがいいのかもしれません。しかし、あまり早く収穫すると味がのらない、という問題がありそうです。そこで、試しに７～８割方赤く色づいたものを収穫し、少し食べてみました。伊達家の子供達は「おいしいよ」と言ってくれました。これならいけるかもしれません。今回、７～８割方熟したものを数日おいて追熟したものをお届けしてみたいと思います。それでも多少割れているものもあるのですが、食べてみて、特に味について感想をお寄せいただけると幸いです。

一方、５０個ほど収穫したもののうちに、割れずに全体が赤くなったものが４個ほどあったので、そのトマトからは来年用の種を採ろうと考えています。割れずに赤くなる性質が次世代に伝わればいいのですが、それにはもう少し年数が必要かもしれません。

固定種のトマトを作っている農家はほとんどなく、参考になる資料もあまりないので、トマトと向き合いながら、様々な可能性を考えながら、試行錯誤を積み重ねていこうと思います。

余談ですが、この問題、交配種を作れば話は簡単なのですが、伊達家ではその道を選ばず、固定種を作り続けていきたいと思います。その理由は、話せば長くなるので、また別の機会にじっくりお伝えしようと思います。